

# 道の駅fumotto南アルプス基本構想（概要版）

## 1. 背景・目的

●中部横断自動車道南アルプスIC南側エリアについては、「人々が集い、地域とつながる集客交流拠点」の下、民間活力による拠点整備を進め、令和6年に地域交流拠点が開業し、さらに令和7年に大型集客施設「コストコ南アルプス倉庫店」が開業し、玄関口に活気と賑わいが創出されています。

●当該エリアは、交通の要衝に位置し、新たな人の流れが生まれていることから、まちの成長と発展を牽引するまちの玄関口としての機能強化が求められており、**地方創生につながる拠点形成を一層推進**する必要があります。

●本「道の駅」においては、観光・交通拠点機能を構築し、既存の地域交流拠点を活かした新たな道の駅のカタチを創出することで、**玄関口としての価値を高め、人の流れを市内全域へと波及**させていきます。

これらの取組の結果として、地域全体の①**魅力を効果的に発信**、②**交流人口の増加を促進**、③**交通利便性の向上**を図り、南アルプス市の未来を支える拠点づくりを推進していきます。



## 2. コンセプト



本「道の駅」は、市の玄関口に位置する「観光・交通拠点」と、地域の魅力を発信する「地域交流拠点fumotto」が一体となって形成される、**新たな交流拠点**です。

地域交流拠点における取組・充実により、来訪者が**地域とつながる**場を目指し、観光・交通拠点の併設により、来訪者にとっては本市を訪れる際の最初の立ち寄りスポットとして、市民にとっては日常の移動や交流を支える身近な拠点として、人とまち（地域+情報）が、**さらにつながる**場を目指します。

この**“2つのつながる機能”**が有機的に連携することで、まちの玄関口としての価値を高め、周辺エリアや市内全域の回遊性の向上を図り、より広域的な視点での地域活性化を促進します。

**人と人、人とまちがコネクトし、新たな価値を創造する「つながる道の駅」を目指します。**

## 3. 登録エリア

観光と交通拠点  
エリア

地域交流拠点  
エリア

=

**道の駅**  
**fumotto 南アルプス**  
fumotto Minami-Alps

コストコや周辺施設の来訪者の増加に伴う交通対策として、「観光・交通拠点エリア」を臨時駐車場として運用しています。本構想では、この「観光・交通拠点エリア」に、既存の「地域交流拠点エリア」を加えた区域を『道の駅fumotto南アルプス』として登録し、面的な拠点形成を図ります。

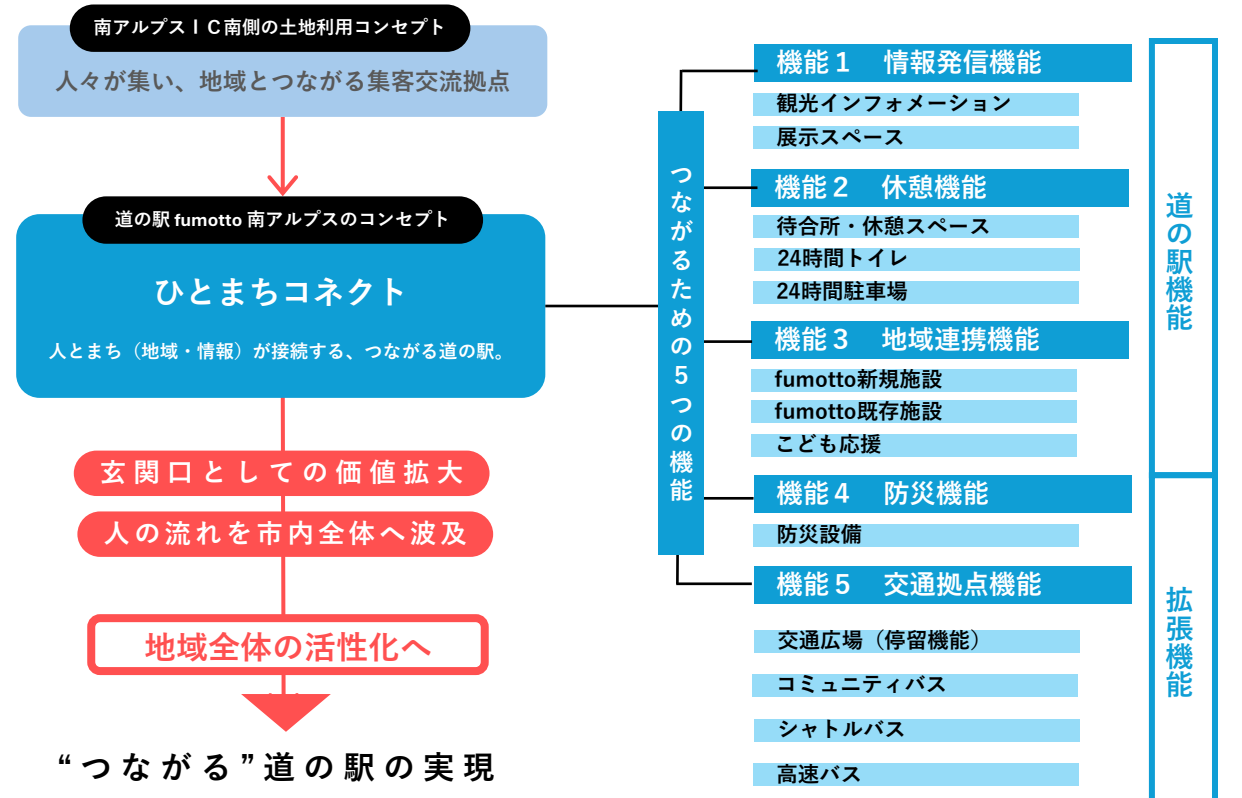
2つのエリアを一体的に運用し、面的な道の駅として整備することで、

**観光案内機能（=情報発信機能）**  
**交通拠点機能**  
**地域連携機能**

を相互に連動させ、広域からの来訪者を受け入れるとともに、インターチェンジ周辺や市内全域への回遊を促進する拠点としての役割を強化し、本「道の駅」の目的達成を図ります。



## 4. 導入機能



## 5. 施設概要

● 5つの導入機能を具現化するための施設について、右表により整理します。

● 設置施設については、以下の3施設です。

- ① 観光案内施設
- ② 交通拠点施設
- ③ 地域連携施設

● 観光・交流・情報発信・交通結節といった役割を相互に連携させることで、道の駅の目的に掲げた「つながる道の駅」を創出する構成としています。

● 玄関口として、まちの景観や街並みと調和のとれた仕様により整備を進めます。

施設	区分	導入機能	事業案	分類	現状
観光案内施設	新設エリア	インフォメーション	・無人案内 ・デジタルサイネージ	情報発信機能	臨時駐車場
		展示スペース	・パンフレット ・企画展		
		待合所	・フリースペース ・カフェスペース	休憩機能	
		24時間トイレ	・男女トイレ ・障がい者用トイレ		
		24時間ベビーコーナー	・授乳室 ・ベビーベッド・キッズルーム		
		24時間駐車場	・駐車場(EV有)約70~100台 ・障がい者・駐輪場		
		交通設備	・停留所 ・待合所(観光案内所)		
防災設備	・防災井戸 等				
交通拠点施設	新設エリア	新たな賑わい機能	・民間事業	地域連携機能	地域交流拠点
		FARM(農)ゾーン	・直売所・レストラン ・ベーカリー、肉専門店		
		MOUNTAIN(山)ゾーン	・アウトドアショップ ・MTB・フードコート		
		LOCAL(地域)ゾーン	・地域の飲食、物販、テナント		
		イベント広場	・賑わいイベント ・会場レンタル		
地域連携施設	既存エリア				

## 6. 施設配置

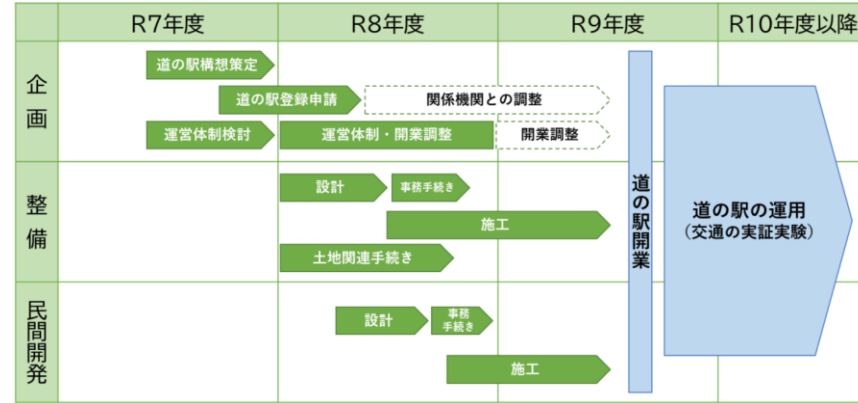
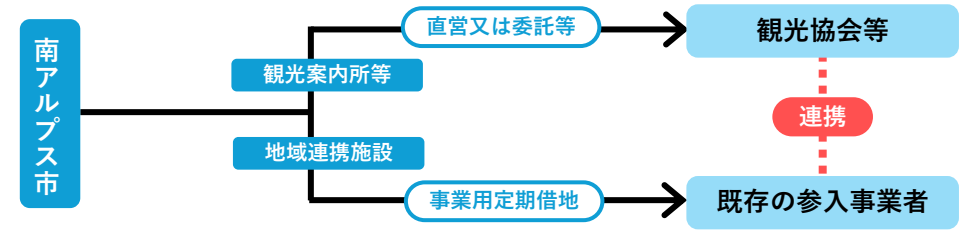
● 施設全体の配置については、既存の地域交流拠点エリアに「地域連携施設」を配置し、新設エリアに、①交通拠点施設、②観光案内施設、③地域連携施設(新設)を配置し、快適に移動できる利用者動線を確保し、施設ごとの連携を優先した配置計画とします。

● また、交通の結節点としての役割を担うため、東西南北の各方向からのバスが円滑に乗り入れ・乗り換えできる動線を確保し、誰もが利用しやすい配置計画を検討します。



## 7. 管理運営・スケジュール

施設のうち、公共施設(観光案内施設・交通拠点施設)は、直営・委託・指定管理等「公設民営」方式を基本に検討します。民間施設(地域連携施設)は、参入事業者へ賃貸、既存施設との連携を図ります。

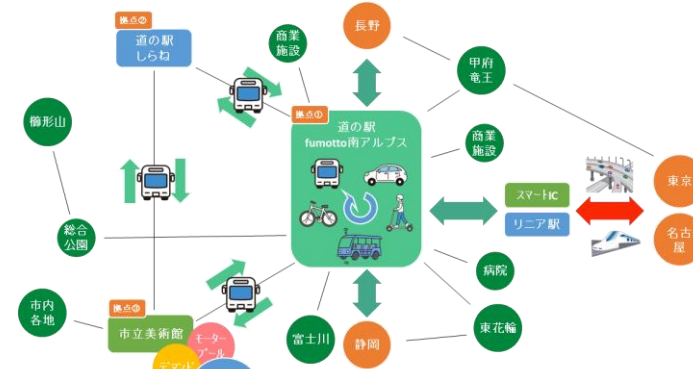


**【スケジュール】**  
本構想を基に、国土交通省への登録手続きや、運営体制の構築、具体的な整備計画・設計を進めていき、令和9年度の開業を目指します。  
なお、詳細は、関係機関との検討協議を行い、具体化していきます。

## 8. 交通機能の基本的方向性



交通拠点について、南アルプスインターチェンジ周辺に交通機能を集中させるのではなく、既存のバス路線、市民の生活環境、周辺観光拠点との連携を踏まえ、特色と役割の異なる市内の3つの拠点(①交流拠点・②中心拠点・③観光連携拠点)を結ぶ「面的」な交通ネットワーク拠点を検討します。  
これにより、市内に新たな人の流れを生み出し、地域と観光の相乗効果を高めていきます。



**【将来的な交通拠点検討ゾーン】**

リニア開業後を見据えた「将来的な交通拠点検討ゾーン」を位置付け、これまでの公共交通の検討結果を踏まえたうえで、段階的な交通拠点機能の拡充を推進していく。